



news release

平成20年10月9日

ポケットカード株式会社(8519) 平成21年2月期中間期業績の概況(連結) 営業収益195億71百万円、経常利益13億42百万円、中間純利益10億58百万円

※ 当社は前第3四半期より連結財務諸表を作成しておりますので、前年同期の比較対象として前中間期の個別財務諸表数値を使用しております。

ポケットカード株式会社(8519)の平成21年2月期中間期の業績は、割賦購入あっせん部門が順調に推移したことに加え、プロセシング事業を開始したことによる収入増があったものの、貸金業法改正に伴う上限金利の引き下げ及び与信の厳格化を実施した結果、融資収益が減少し、営業収益全体では195億71百万円(前年同期比3.4%減)となりました。

また、業務全般においてコスト構造の改善に努めたものの金融費用の増加を主因に営業費用が増加した結果、営業利益は13億38百万円(同47.6%減)、経常利益は13億42百万円(同47.4%減)となりました。中間純利益につきましては当社保有株式の売却による特別利益の計上等により、10億58百万円(同1.6%減)となりました。

収入面では、割賦購入あっせん部門が、各種マーケティング施策及びショッピングリボ拡大への積極的な取り組みを実施したことにより、取扱高が1,294億46百万円(同11.2%増)、営業収益は35億84百万円(同25.5%増)となりました。また昨年11月からプロセシング事業を開始したことにより、プロセシング部門の営業収益は12億9百万円(同106.9%増)となりました。一方、融資部門につきましては、貸金業法改正に伴う上限金利の引き下げ及び与信の厳格化を行った結果、融資残高は1,388億88百万円(同0.3%減)、営業収益は141億75百万円(同11.9%減)となりました。以上の結果、営業収益全体では195億71百万円(同3.4%減)となりました。

費用面では、業務全般においてコスト構造の改善に努め、販売費及び一般管理費は前年同期比でほぼ横ばいの水準となったものの、金融費用が増加したこと等をうけ、営業費用は182億32百万円(同3.0%増)となりました。

以上の結果、営業利益は13億38百万円(同47.6%減)、経常利益は13億42百万円(同47.4%減)、中間純利益は当社保有株式の売却による特別利益の計上等により10億58百万円(同1.6%減)となりました。

【単位:百万円】

	営業収益	経常利益	中間純利益
平成21年2月期 中間期連結業績	19,571	1,342	1,058
(ご参考)平成20年2月期 中間期個別業績	20,253	2,550	1,076
前年同期比	△3.4%	△47.4%	△1.6%

なお、平成20年8月7日に公表いたしました当社保有株式の売却による特別利益の計上等を踏まえ、平成21年2月期通期の業績予想につきましては修正することといたしました。

修正内容詳細については以下のとおりです。

(連結)

【単位:百万円】

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	38,900	2,500	2,500	1,200	20円27銭
今回発表予想(B)	38,900	2,500	2,500	1,400	23円65銭
増減額(B-A)	-	-	-	200	3円38銭
増減率(%)	-	-	-	16.7	16.7
(ご参考)前期実績 平成20年2月期	40,188	3,161	3,168	936	15円81銭

以上